

(昭和四三年卒) 岡部 光明

岡野研究室で淹れてもらったコーヒー

人生においては、いくら年月が経つても、ありありと思い出す場面が誰にでも幾つかあるものです。私の場合、すでに五十年近くも昔(一九六七年四月)のことですが、卒業後の進路についてアドバイスをいただくために岡野先生の研究室を訪問した時、先生が私のためにご自身でコーヒーを淹れて下さったことが忘れ得ない思い出になっています。

先生は当時、新進気鋭の助教授でしたが、私にとって東大の先生は年齢にかかわらず偉くてなかなか近寄りにくい存在でした。だから研究室のドアを開けて緊張しつつ入ったとき、岡野先生が「コーヒーでもいれようか」と言つて、ご自身でお湯を沸かして二人分のコーヒーを淹れてくださったので、あつけにとられたのです。そのような経験はそれまで全くなく、また予想もしていなかったことだけに、何と心やさしい先生かと感激したわけです。そしてその日、明るい日差しが入る研究室で色々なご意見を下さいました。岡野先生に関する私の印象と記憶は、すべてここに原点があります。

それから、先生から実に色々とお心づかいをいただき、とてもありがたいことだったと感謝しています。卒業後十年以上経った一九七八年秋、私は金融機関で仕事をしており、ロンドンで勤務していました。その時、たまたまオックスフォー

ド大学で在外研究されていた岡野先生から「大学でセミナーがあるので来ませんか」とのお誘いをいただき、当日、G. C. アレン教授(当時としては珍しかった日本経済研究者)に引き合わせていただきました。そして別の機会には、インスティテュート・オブ・エコノミック・アフェアーズで発表する論文を共同執筆するお誘いをいただき、幸いにもそれを実現する榮譽に浴しました(この共著論文はその後、同研究所の書物に採録刊行されました)。

私は二十年にわたる金融機関での仕事に区切りを付けた後、最近の二十年間は大学教員に転じています。大学への着任以来、私のオフィスアワーに研究室を訪問してくる学生諸君に対して実行したのは、岡野先生にしていたように、まず彼らにコーヒーを淹れてあげ、そして相談や研究指導に当たることでした! それは私にとつてもたいへん楽しいことでしたが、残念ながら長続きしませんでした。

しかし、その代わり、学生諸君に対しては自分の心からの、そして精一杯の対応をしたつもりでいます。この二十年余りの間、当然のことながら職務である研究と教育に全精力を注ぎこみ、このためゴルフや娯楽に時間を費やすことはほとんどありませんでした。とくに次世代を担う学生に対する教育には大きな責任感と自分なりの熱意で臨み、その結果の一端を「私の大学教育論」、「大学生へのメッセージ」、「大学院生へのメッセー

ジ」、「大学生の品格」などの著書として刊行しました。

岡野先生には大変申し訳ないことですが、先生のゼミナールや授業で学んだことは、今ではほとんど記憶に残っていません。しかし、先生の教育に対するお考えや学生への思いやりは私の心の中から消えることは決してありませんでした。「学校で学んだことを全て忘れてしまった時になお残っているもの、それこそ教育だ」（アインシュタイン）という箴言があります。その意味で、岡野先生からは大学で（あるいは大学教員として）最も大切なことを教えていただいたと感じています。先生、ありがとうございました。

先生がこんなに早く旅立たれるとは、悲しい限りです。いまはただ、安らかにお眠りください。

東京大学経済学部 岡野ゼミOB・OG会
文の集い（特別号）

平成二十七年五月二十九日 発行

発行者 岡野ゼミOB・OG会
